

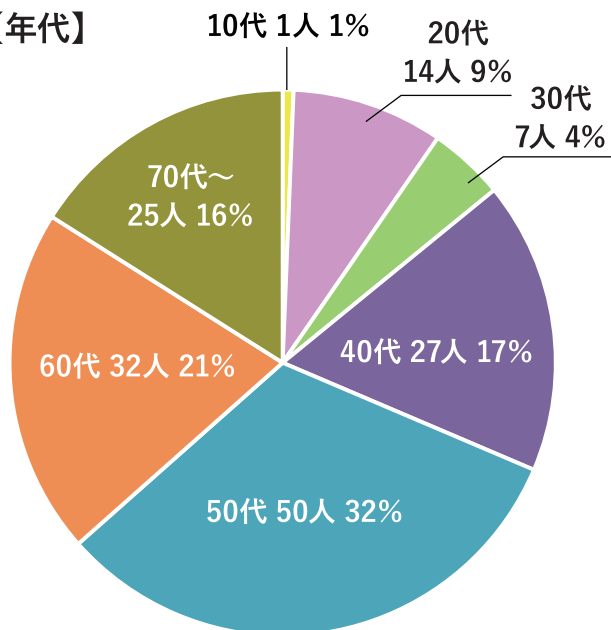


参加者アンケート集計

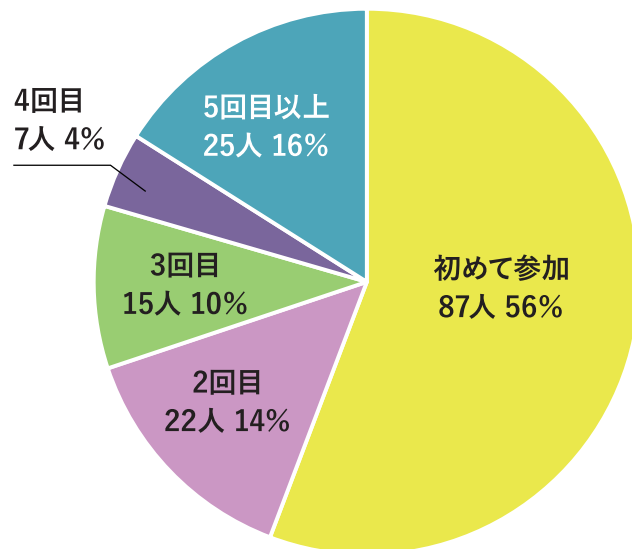
(シンポジウム・分科会など) 【回答数:156件】

回答者属性

【年代】



【日本女性会議への参加回数】



【お住まいの地域】

北海道	3
青森県	1
岩手県	2
宮城県	1
茨城県	3
栃木県	9
埼玉県	2
東京都	6
神奈川県	1
福井県	1
山梨県	72
長野県	2
岐阜県	2
静岡県	1
愛知県	14

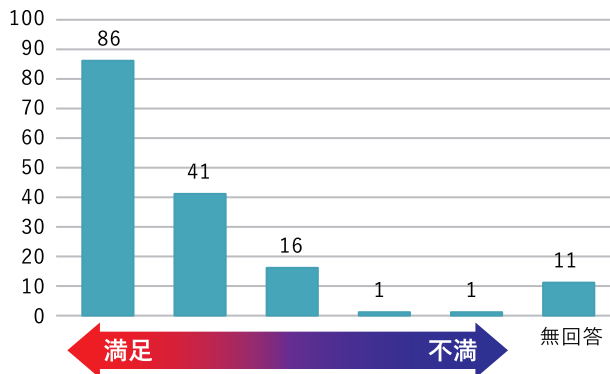
(人)

三重県	2
京都府	1
大阪府	6
奈良県	1
鳥取県	2
広島県	1
山口県	2
徳島県	3
香川県	3
愛媛県	1
福岡県	9
佐賀県	1
鹿児島県	2
沖縄県	2
合計	156

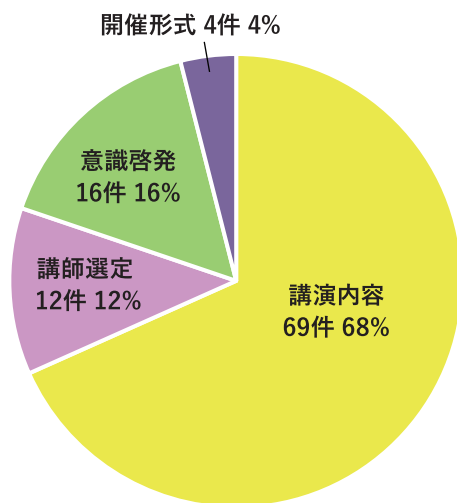
シンポジウムについて

Q. 内容はいかがでしたか。

【シンポジウム満足度】



Q. ご意見・ご感想など(一部抜粋)



◆「講演内容」について

- ・女性会議を開催する、しないよりどんな形、内容で開催するかを検討していくことが大事。男女平等については若年層、特に教育の中に取り込むことが一番早い方法だと思う。
- ・今回の一番の収穫はこれまでの大会の資料や声を集積し、分析できたこと。世代間のギャップや継承の問題が地域、団体を問わず、大きな課題になっていることを改めて認識した。
- ・日本女性会議の歴史から紐解く、会議の意味についての解説が興味深かった。
- ・上野先生の「時代の流れをつかみつつ持続可能な手法の模索」というのは、男女共同参画センターをもつ団体であれば事務局とやってみようと感じさせたのではないか。
- ・パネリストが歴代の実行委員長ということで話の内容が濃かった。もう少し時間があるとよかった。
- ・女性会議の歴史を知り、これから考えることができた。アンケートの実施、集計は女性会議の財産だと思う。

- ・これまでの女性会議の経歴を分析しつつ、現状や今後の展開について知る機会となり、若い世代への参画促進など課題も検討できた。
- ・過去から学び未来へ生かすため、過去の実行委員長を招いて、各地域の現状を踏まえた報告は大変貴重で示唆に富んでいた。
- ・若い世代とつなぐ課題は市民レベルの団体でも同じで、議論はされても、実際に来てもらうことは難しいので、具体的な実践例なども聞きたいと思った。
- ・若い世代に興味を持ってもらうことは課題。今までの女性会議は懇親旅行的なところもあり、高齢世代にとって、それも女性会議の一部だったのではと思う。
- ・上野先生はじめ皆さんのディスカッションをもう少し聞きたかった。
- ・シンポジウムを受け、男性の参加を増やすためには名称の変更が効果的だと感じた。男社会を変えていくためには男性の考え方の改革が必要であり、男性参加を増やす工夫に期待する。
- ・これまでの女性会議の取組みと歴史が分かり、初めての参加でもとてもよかった。
- ・皆さんの話を聞いて、歴史を感じたと同時に、過去の栄光で終わらせることなく、未来へ生かし、繋がるように世代、地域を越えて、より多くの方に参加してもらうことが大切だと思う。
- ・日本女性会議が38年続いていることの意味、またこれからの課題が明確になったと思う。
- ・パネリストが真摯に考えている姿が印象的だった。
- ・アンケート分析や上野さんの総括、これまでの実行委員長の声を聴き、連携、協働の必要を感じた。
- ・女性会議に初めて参加したが、今まで関わられた方々の熱い思いとこれからの課題など興味深く聞いた。この活動が今後も続くようにと思う。

◆「意識啓発」について

- ・男性で初めて参加した。改めて男女共同参画の認識を高めて女性とも接していかなければならない事を感じた。
- ・男女共同参画について自分なりの考えを持つことができ、有意義な時間だった。
- ・女性会議のアンケートで分析されたことは、参考になるとともに会議のあり方を考えるきっかけになった。
- ・過去の実行委員長より、女性会議の開催を機に、女性が感じている問題、人権問題の新たな認識が広まり、ネットワークの構築のきっかけとなったという話があり、今後、甲府市での連携もさらに進んでいくことに期待。
- ・これからも日本女性会議の継続に向けて、高齢化した

団体を、どう次に繋いでいくか、もう一度自分ができることから頑張ろうと思う。

◆「講師選定」について

- ・上野さんのお話はいつも興味深い。分かりやすくよかった。
- ・形に拘らない、地方からの発信に焦点を」という提言を得たことは素晴らしかった。歴代委員長の説得力あるコメント、上野さんがきちんと学者として関わり、女性会議ならではの場面があった。
- ・それぞれの立場での振り返りが本音であり個性的で興味深かった。上野さんはいつも歯切れがよく、今回も胸がスカッとした。
- ・歴代実行委員長を務められた方の話は重みがあり、特に苫小牧市の委員長の日本女性会議への熱い思いは素晴らしい。

◆「開催形式」について

- ・型にとらわれない開催形式で全国各地から繋がる可能性を感じた。大きなネットワークを形成できたらいいと思う。
- ・当日以外にアーカイブ配信で視聴できるのは、ありがたい。

分科会について

第1分科会 性の多様性

Q. ご意見・ご感想など(一部抜粋)

◆第1部

- ・「コウノドリ」32巻の完成に2年半を要したこと、同性カップルの出産についての話は興味深かった。パートナーシップは行政で条例策定を作るだけでなく、土台をきちんとしなくては意味がないというお話に同感。
- ・家族のあり方について、性別に関係なく堂々と家族として宣言できる社会になればいいと思った。
- ・結婚や妊娠をめぐる問題はまだまだ多いが、LGBT等の枠を超えた多様性あふれる社会が実現してほしいと思った。
- ・子どもたちにLGBTを伝える方法について、少しヒントを得られたと思う。
- ・鈴ノ木ユウ氏とコーディネーターのやり取りが丁寧で、性の多様性という今話題の内容だが、家庭内の役割分担から男女共同参画の考え方まで幅広くとらえていてよかった。
- ・温かく親しみやすい雰囲気、性の多様性について身近に感じた。

◆第2部

- ・パートナーシップ制度の意義について色々な考え方を

聞いた。制度を作って終わりではなく、住民の理解などの土台もしっかりしなければいけないと分かった。

- ・性の多様性や私たちが今後どんな社会を構築すべきか、気づきの多い分科会だった。登壇者の仲のよい雰囲気や伝わり、楽しい時間だった。いじめの影響から制度のあり方までに議論があり、性を通して生きづらさのない世界と人権の大切さを理解できた。
- ・多様な性と家族、パートナーシップに関して日本の教育はまだ遅れていると感じた。

第2分科会 ジェンダー・DV

Q. ご意見・ご感想など(一部抜粋)

◆第1部

- ・アンコンシャス・バイアスをはじめ、ジェンダー平等について理解が深まった。
- ・女性の活躍のために女性自身の努力、勉強が必要というだけでなく、男性においてもアンコンシャス・バイアスの解消などの努力や理解が必要ではないか。
- ・普段の社会の中で差別なのかやさしさなのかという問いかけの観点はよかった。
- ・暴力を生み出す構造だけでなく、社会背景やジェンダー平等がいかに関わっているかがよく分かった。今の日本はジェンダー平等の実現には、本当に時間がかかり、義務教育や生涯学習で継続的な啓発と学習を積み重ねることが大事だと思った。
- ・何が暴力かDVに繋がるかを認識できるような情報提供の機会が小学生のうちから必要だと感じた。

◆第2部

- ・日本は現在性教育が十分でないのが残念。DVの撤廃のためには幼いころから性について正しい知識を身につけることが重要で、ぜひこれからの子ども達は性教育を受けてほしいと思った。
- ・パネリストの半数くらい他県の方でもよかったと思う。県内外での情報交換や、具体的な取組み紹介などをもう少し聞きたかった。
- ・DV問題の深刻さに驚いた。性教育の必要性やアンコンシャス・バイアスの排除等課題だらけの日本の現状を知り、進展のためには女性議員の増加も望ましい。
- ・これが正解という問題ではないからこそ、さまざまな事例報告や各パネリストの話を聞くことで自分の身に引き寄せて考えることができた。
- ・DVに関する話は全ての山梨県内の高校生に聞いてもらい、自分を守るための知識の一つとしてほしいと強く願う。

第3分科会 子どもの教育・子どもの貧困

Q. ご意見・ご感想など(一部抜粋)

◆第1部

- ・子どもの人生の主人公は子ども自身であること、子どもに優しいまちは皆に優しいまち、との話から色々な気づきがあった。「頼り上手」と「頼られ上手」、困りごとを解決できる人を探していくことが大切と感じた。
- ・ベストフの三角形や萃点(すいてん)という言葉は耳慣れないが、子ども支援の為には今後も関わっていきいたいと思った。
- ・子どもは1人の人間で、権利として「命の権利」と「成長、発達の権利」が守られなければならないという話はとても分かりやすかった。
- ・子どもの人生は自分のものという事に改めて気づき、地域皆で育てていくことが大事だと思った。
- ・子どもに関わる問題やネットワークづくりなど、興味深い内容だった。

◆第2部

- ・学生さん達の活動を始めた理由や意気込み、何を大切にしている、何に困り、どんな不安があるのかを具体的に聞けたうえに、今後へ向けた課題と改善策なども聞くことができ、大変勉強になった。
- ・発表者との間で世代交代が図れ、その人のあり方そのものが深いところで繋がり合うのがよい。
- ・若い世代の方たちが社会問題をシンプルに考え、行動できているのに感動した。自分ごととして考え、行動することの難しさや、失敗を認められる清さに尊敬しかない。
- ・学生さん達が頑張っている様子が分かり、日本の未来も明るいと思った。
- ・子どものために活動するにあたり、上手いかわないときもあるが、周りとの協力とか意見交換が必要であると感じた。

第4分科会 ワークライフバランス

Q. ご意見・ご感想など(一部抜粋)

◆第1部

- ・伊藤先生の講演が面白かった。以前は、日本の女性の勤労率が高かったとのこと。障がい者も含めて、農家や自営をやっていたころは、みんなで支え合う必要があり、それぞれが役割を果たせたが、大企業型になると果たせる役割が限定され、孤立すると改めて思った。
- ・講演の中では親として上手いって体験談だったが、上手いけていない父親の苦悩を母として知ることがあった。

- ・専業主婦(主夫)の問題、世界と日本との比較を知ることができ、大変勉強になった。男性からの視点でワークライフバランスについての講演があり、新たな視野が広がった。
- ・2講師の講義に加え、学生さん達の研究発表はなかなか聞き応えがあった。特に、地元山梨の状況を把握しようとする試み、またアニメ作品の分析等、等身大でジェンダー問題を捉えようとする姿勢に好感がもてた。学生さん達との対話を盛り込んだ設定も、世代を超えて社会を考え合う場面の創出に成功していたと思う。
- ・以前から聞きたかった伊藤さんの話が聞けてよかった。ワークライフバランスの歴史や問題点が俯瞰できた。「ケア力」についてはコロナ禍で特に気になっていることだったので、参考になった。

◆第2部

- ・分析と状況からも家庭生活における父親の役割が大きなものだと実感しているので、子育ては自己成長につながることをたくさんの方に実感してもらいたいと思った。
- ・私の所属では、「地域の若い父親たちは本当によくやっている」と評価している。帰宅ラッシュが夕方6時ころなのをみても、都会に比べると家庭時間が長いのが分かる。だからこそ、都会とは違った地域に合った現状と課題を掘り下げてほしいと思った。
- ・「イクメン」を特に意識しない社会が早く実現するよう願っている。
- ・データに基づいた話で説得力があった。男性の育児休暇取得を推進するには、経済的な裏付けがないと難しい。
- ・ワークライフバランスの重要性について学ぶことができた。固定観念にとらわれないで出来ることから始めたいと思う。

第5分科会 女性活躍

Q. ご意見・ご感想など(一部抜粋)

◆第1部

- ・実際にキャンパス卒業生へのインタビューがよかった。全体的に分かりやすく納得でき、グループワークも短時間ながら有意義だった。
- ・グループワークで話せたことがとてもよかった。
- ・参加型の分科会だったので、初めてのZOOMで楽しく参加できた。女性でもチャンスがある起業について、もう少し具体的な話も聞きたかった。小笠原さんのレゴを使った自己分析は興味深かった。
- ・短い時間だが実りの多い時間だった。

◆第2部

- ・起業はハードルが高いように感じていたが、まず自分を知ることから、やりたいこと、軸をしっかり持つこと、人と考え方が違っていいということを知った。レゴを使った取組みもあり、面白かった。
- ・少しの時間だったが、それぞれの考え方が聞けて刺激になった。
- ・深層心理について、レゴブロックを活用して感じるところが面白かった。
- ・レゴブロックを使用した新しい切り口で対話ができ、面白い体験ができた。
- ・やりたい活動があってもどう始めたらよいか分からない、いつ始めるか、お金はどうしたらいいか分からず、始める勇気がないまま時間がたっていたが、今日参加して一歩前に進む勇気がでた。

第6分科会 女性活躍

Q. ご意見・ご感想など(一部抜粋)

◆第1部

- ・ワールドカフェ形式の対話で様々な意見がでてよかった、WEB付箋というアイデアもよかった。木下さんの話とパワポがとても充実していた。
- ・その場で出会った一期一会の方とのセッションがとても新鮮で、良い刺激になった。
- ・紫乃ママの話がウィットに富んでいて楽しかった。
- ・色々な年代の方のお話や違った価値観に触れることができてよかった。
- ・内容としては、想定内のことが多かったので普通としたが、事前のFacebookへの投稿など開催準備に尽力されていたのがよく伝わった。
- ・運営スタッフとして参加した。様々なことを学び、多くの仲間たちのチャレンジ精神や向上心にたくさん触発された。

◆第2部

- ・学生の方たちも頑張っていた。
- ・若い方がいきいきとテキパキ会をまわしている姿が印象的だった。また、初対面の方とグループで話す機会があり、改めて色々考える良い時間だった。
- ・これからのキャリアについて考えを広めることができた。
- ・これこそ対面での参加だったら…と思った。いきなりワールドカフェへの参加は経験者でないと参加しにくいように思う。
- ・分科会内容はとてもよかったが、リモートで参加者の顔が見渡せない環境の中だったので、手探り状態でや

りにくかった。実際に対面でグループワークができればよかった。

- ・私の中で、これでいいのだ!は、エールとしてたくさんの方に発信したい愉快なことばになった。
- ・色々な方々とコミュニケーションがとれてよかった。
- ・第1部を踏まえてさらに踏み込んだ話ができよかった。
- ・人が変わるきっかけを直に聞くことができた。

第7分科会 食育・農業

Q. ご意見・ご感想など(一部抜粋)

◆第1部

- ・山梨の農業の今後、食や地域の魅力について、改めて考える機会になった。
- ・新しい農業の取組みや、はね出しからフードロスへの転換など勉強になった。
- ・とても興味深い講演だった。農業は本来、国全体で取り組むべきものだと思う。講演にあったように、日本は「食の価値が低い」と思うが、遺伝子組み換えやゲノム編集食品の対応からみても、そうした国の現状に危機感を感じている。講師の話で元気がでた。自分にできることを考えていきたいと思う。
- ・山梨県で活躍している農業者や農水産物を加工する人、販売する人などの活動と知ることができ、有意義だった。
- ・一番聞きやすかった。ぜひ山梨の農業が盛り上がっていかけてくれればと願う。

◆第2部

- ・食育について様々なアプローチの仕方があることが分かり、参考にしようと思った。
- ・実家がぶどう農家なので興味があり視聴した。パネリストの取組みが農家からは思いつかない発想だった。
- ・農業といっても野菜や穀物を作る農家だけでなく、果樹苗や花卉園芸も農業に含まれる。食育が農業のイメージを変えるという発想がなかったので、勉強になった。
- ・子どもが小さい時から食べ物に関してはそれなりに伝えてきたつもりだったが、もっと何かできたのではと考えながら話を聞いていた。今からでも遅くないこと、周りに対して自分ができること、地域にできることを考えていきたい。

第8分科会 環境

Q. ご意見・ご感想など(一部抜粋)

第1部

- ・孫世代も今のような住みよい街であり続けてほしいと思った。
- ・それぞれのゲストスピーカーが英語や日本語を交えてリアルに語り、とても参考になった。地元から発信という気持ちが伝わった。

◆第2部

- ・学生さん達がよく頑張っていた。
- ・環境に対し、様々な視点から掘り下げられていた。今回で終わらせず続けて欲しい題材だと思う。
- ・第1部は英語を思い出しながら聞き、第2部はゼミの一員になった感覚で懐かしい思いと共に、発表者自身が日本の未来にとって大きな財産で、更に輝いてほしいと思った。

第9分科会 生涯活躍・健康

Q. ご意見・ご感想など(一部抜粋)

◆第1部

- ・医療、福祉、介護などで活動する女性の皆さんの現場の声を聴くことができた。共通の課題も見受けられたので、連携、協働を検討していくきっかけになったと思う。
- ・それぞれの活動が魅力的だった。自分も何らかの形で関わりたいと思った。
- ・活動分野が異なる方々が今後連携を図り、地域を暮らしやすくしていくことに期待。
- ・それぞれの方がそれぞれの道で自分を生き、人を活かして活動されている姿に感動した。この分科会を機に、横のつながりができそうで、ますます甲府市が活気づくことと思う。
- ・県立大の先生や介護の現場の専門職の方々の発表も素晴らしかった。いきいきサロン事例や大学と地域の連携、古民家利用事例、高齢者が安心して自分の家だと思えるような場所で暮らし続けられるような看護介護の専門職からの支援など、地域創生のモデルとなる活動がたくさんあると思う。せっかく今回まとまったこの事業例発表をより多くの人知ることができるよう、もっと様々な場で今回の内容の発表が増えることを願う。

◆第2部

- ・露木さんの「晴ればれ」の勉強会、ボランティアに参加してみたいと思った。

- ・第1部での報告を基により詳しい解説や分析を理解できた。次回以降も、この分野の現状を取り上げてほしい。
- ・連携の必要性が分かり、今後の活動に繋がっていくと思われるので、今後が楽しみ。学生さんも得るものがあったと思う。
- ・産学官の連携を推進し、地域活動が展開できる可能性を示唆できた。ゴールを見出すことができたと思う。
- ・学生さんたちが参加したことでよい経験ができてよかったと思う。

第10分科会 生涯活躍・健康

Q. ご意見・ご感想など(一部抜粋)

◆第1部

- ・多くの分野の専門家から女性の生き方について学ぶことができ、自身の将来設計についてアドバイスをもらった気持ちになった。今回をきっかけに、私自身の生き方について、より良い生き方を選択するため、情報収集を始めようと決意した。
- ・女性の生き方の奥深さを聞いてよかった。
- ・学生さん達の調査を起点に、深めていくという流れはよかった。人生100年といわれる中でキャリア形成、ライフプランづくりを学ぶ機会の重要性を感じた。また、多世代で語ることによるメリットも私自身感じ、次世代のためにもその人らしく生きているための環境づくりをそれぞれの立場でしっかりしていかなければならないと感じた。
- ・学生さんが事前にアンケートを取り、当日も分科会に参加されたことがとてもよかったと思う。また、講演を聞き、子育ての経験など若い方に伝えることは大切だと思った。
- ・若い人たちへのメッセージは伝えられたのではないかな。

◆第2部

- ・社会を変えるためには行動すること、皆で支え合うことが大事だと思った。
- ・若い世代が積極的に政治について学ぶ姿勢が頼もしかった。三浦さんの講義内容はわかりやすかった。
- ・三浦先生の前向きで愛情のある言葉は、未来を政治で創っていこうという気になれた。主権者教育と言いつつ学問の中立性の問題から一歩進めない現状なので、ぜひ若い世代(社会に出るか出ないかぐらいの層)へ今回の講座を聞いてほしい。
- ・政治を身近に感じられる良い機会になったのではないかなと思う。
- ・議員さんのお話も、上智大の先生のお話もとても興味

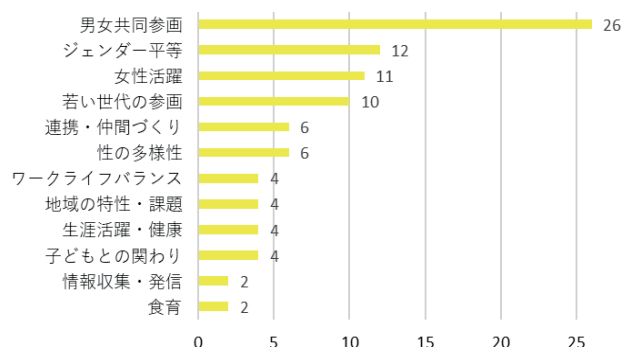
深く聞かせていただいた。私も何かしなくてはと思った。

- ・多くの人に女性の政治参加の重要性を理解してもらえたのではないかな。

本大会で得られた学びや成果について

Q.本大会で得た学びや成果について、今後ご自身の活動で活かせることはございますか？

◆本大会で得られた学びや成果(分野別)



◆自由記載(一部抜粋)

- ・現在大学生であるが、今後社会に出ていくうえで、女性の一人として男女共同な社会の実現に向けて活躍できればと思う。
- ・考えを伝えることの大切さ、それ以上に行動することの重要性に気づかされた。
- ・ガールスカウト連盟の女子高校生へのアンケートは興味深かった。若い世代の方々にとってもまだまだおかし、嫌だと感じるものがたくさんあるのだと思った。世代は違っても根っこは同じだと思うので、何とか繋がっていけるような仕掛けづくりをしたい。
- ・女性だから男性だから、自分の中のアンコンシャス・バイアスなど。まずは、気づくことから初め、気づいた自分を認めてあげたいと思った。
- ・これだけ同じ悩みや課題を共有できる仲間がいると思うと心強い。まずは行動してみようと思った。
- ・地方の現状についての情報をたくさん得ることができた。担当している研修企画の業務に生かしていきたい。
- ・ともに活動している仲間がどんな考えや思いを持っているのかを今一度、聞いてみようと思った。さらに学びを深めたい。
- ・「就業と子育て」に関して、特に育児休業に焦点を当て研究しているが、男性の育児参加は女性労働の問題の一助となりうる部分もある。その点で、父親の状況を整理分析することはとても意味があり、今度の研究に生かしていきたいと思った。
- ・自分の生き方や、食育、人権の問題等、終わりという概

念はなく、これからも自身が健康で社会との関わりを持ち続けていきたいと思う。

- ・自分が関わっている団体も高齢化で悩んでいたが、若者の参加も増えてきているので、当事者の課題に向き合い続けて、多世代、多文化のネットワークでジェンダー平等に向けて頑張っていこうと改めて思った。
- ・生協活動をしているが、産直について学びを深めること、地元の現状をより知ることなど考えていきたい。
- ・多様性が普通な社会、地域になるように、日常的にアンコンシャス・バイアスになっていることに気づくなど、意識改革の活動を続けていきたい。
- ・性別のことで生活に不自由を感じている方々、そこから発展してもっと自由に生活していきたい方々の意見をたくさん聞けたので、今までよりも寄り添える思いが持てるようになったと思う。
- ・これからの男女共同参画推進活動には、男性の声が必要だと感じたため、男性の推進委員にも名もなき家事・育児などを経験いただき、男性から男性へ発信してもらおうと思った。
- ・ダイバーシティ、SDGsなど様々な考え方が生まれており、これからの事業活動や生き方を考えるうえで重視すべきであることが理解できた。
- ・既に市内にファミリーサポート制度があるが、更に必要な方向からのサポートへと提案していきたい。
- ・技術の変化に伴って、今だからできる方法や活用できるルールはどんどん増えているので、日本女性会議のあり方も、時代に合わせて進化していかなければと感じた。
- ・男女共同参画では、おかれた立場でしっかり自分の意見が言える自分になること、LGBTQでは、「みんな違ってみんないい」の実践と理解をしていくこと、SDGsでは、ゴミの削減や車に乗らず近場は自転車で行く、太陽光発電を上手く利用するなど取り組んでいきたい。
- ・現在は仕事と子どものことでいっぱいだが、何か社会に役立つことがしたいと思った。そのために、仲間とゆるやかに繋がっていき、色々なことを勉強と思いつけていこうと思った。
- ・パネリストとして参加した。今回の繋がりを大切に、この会議をきっかけに動き出せるよう、今後につなげていきたい。

その他ご意見

◆自由記載(一部抜粋)

- ・やはり現地に行って大会関係者の熱意を感じ、全国の方と出会えるチャンスがなかったのは残念。

- ・工夫を凝らして開催されている様子が伺えた。オンラインで気軽に開催できるメリットも大いにあったと思う。
- ・家庭があるので外泊は難しく、オンラインで助かった。
- ・若い方、大学生やアトラクションに参加された小学生、中学生、高校生の皆さん、お疲れ様でした。
- ・若い方の参加率を上げるためにも開催日を土日で検討されても良いかと思った。また、実際に開催地を訪れるのも良いが、費用の問題もあるので、オンラインも併用できる参加も今度検討いただきたい。
- ・今年は山梨なら遠くないから参加できるし、旅行もかねて行こうと思っていただけに、当初オンラインのみとなり、残念に思った。しかし、アーカイブで他の分科会の様子も見られ、これもありだと思った。今までは参加できるものが限られていたので、各分科会の報告は一部だけで面白くなかった。アーカイブで全部みられるのはいい。
- ・オンライン配信はとても助かる。これまで参加したくても、仕事や諸活動の関係で諦めていた。ライブ後にさらにアーカイブ配信があると、都合に合わせて視聴できると同時にじっくり学ぶことができた。
- ・山梨県民なので、やはりウェブではなく会場で参加したかったし、県外からのお客様にも来てほしかった。
- ・配布資料が大変多く紙がもったいないため、何か方法を考えた方がいいのかなと思った。
- ・シンポジウムで、オンライン開催は小さな自治体にも大会開催の可能性を持たせたという話があったが、大会開催の意義は趣旨の理解や共有だけでなく、その地域の良さを認識してもらうことも非常に重要と考えるので、やはり現地での対面開催を支持する。小さな自治体は複数自治体での開催でもよいと思う。
- ・日本女性会議を知っている人が少ないのではないかと思う。もっと広く広報していくことが必要。
- ・分科会のZOOM参加は楽しかった。初対面の方とも気兼ねなく話ができ、いい経験だった。女性会議の総括と未来は意義ある企画だったと感じた。実際に開催した、やむなく中止した、初めてオンラインで開催したなどそれぞれの立場での貴重な意見が聞けた。
- ・各都市で行う日本女性会議は普段、男女共同参画に触れていない人に知ってもらう機会という意味では、意義があると思った。しかし、普段から男女共同参画について活動している人にとっては物足りないものではないかと感じた。
- ・男性の参加が増えるといい。名称がソフトになるといいかもしれない。
- ・2年続けてのオンライン参加だった。良い面もあるが、やはり開催地へ行って臨場感を味わいたいかな！
- ・平日は仕事をしているため、アーカイブもなかなか視聴できず、残念。アーカイブの時間をもっと欲しかった。
- ・オンライン開催は気軽に参加しやすく、日中仕事をしている人でもアーカイブが視聴できてよかった。オンラインでは熱量が伝わりにくく、寂しい感覚もあるが、大会参加のハードルを下げるきっかけになると思う。
- ・全国から参加者の皆さんに山梨県を訪れてもらうことが叶わなかったのは残念だが、内容は非常に意義の大きいものになったと思う。